ハンドマイク街頭演説原稿例　マイナンバー・海洋放出

二〇二三年九月十四日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　岸田自公政権は紙の健康保険証を廃止し、マイナンバーカードへの一体化を無理やり推し進めようとしています。先の国会では、マイナンバーカードやマイナ保険証について、さまざまな問題やトラブルが明らかにされました。厚生労働省がマイナ保険証のデータについての総点検をしていますが、８月下旬の段階でマイナ保険証が使えない事例が七十七万件も確認されています。日本共産党は、国民の医療を受ける権利を守り、命と健康を守るためにも、紙の健康保険証廃止をやめることを強く求めます。

　政府はなかなか広がらないマイナンバーカードを一気に普及するため、保険証との一体化を進めているのが実態です。ところがあまりに急いで進めようとしたために、さまざまなトラブルが発生しています。日本共産党の伊藤岳参議院議員はこの問題で政府を追及し、「紙の保険証を残すのが一番確かな方法だ」と強く迫りましたが、政府はその方針を変えようとしません。問題があることははっきりしているのですから、まずは立ち止まって見直すべきではないでしょうか。紙の健康保険証廃止の方針を取りやめ、紙の保険証を残すことを強く求めます。

　みなさん、福島第一原子力発電所の事故により発生した汚染水をアルプスという設備で処理した水が、海に放出されました。政府も東京電力も、処理水の放出は漁業関係者など関係者の理解なしには行わないと約束していました。ところが今回の放出について、地元漁業関係者ははっきり反対しています。日本共産党は関係者との約束を破り、理解を得られないまま強行されたアルプス処理水の海洋放出に強く反対し、ただちに中止するよう強く求めます。

　福島の処理水がふつうの原発からの排水と大きく違うのは、福島は核燃料に直接触れた水だということです。アルプス処理したとはいえ、核燃料に直接触れた水を海に放出するのは、人類史上初めてのことであり、どのような影響があるか、はっきりしたことが言えないのが実態です。だからこそ漁業関係者が反対し、外国からも反発や疑問の声が上がるのではないでしょうか。

　政府などは海洋放出するしか方法がないと言っていますが、専門家からは別な対応策の提案がされています。政府はそれらの提案を真剣に検討したのでしょうか。政府のやり方は無責任と言わざるを得ません。日本共産党は、アルプス処理水の海洋放出をただちに中止するよう、重ねて政府と東京電力に求めます。

　この機会に日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）